



各 位

2026 年 10 月 26 日

会 社 名 新都ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 塚本 明輝
(コード番号：2776 東証スタンダード)
問合せ先 経営企画部長 長井 司
電 話 03-5980-7002

大手総合商社との連携による再生アルミニウムの国内供給開始について ——再生資源サプライチェーン・プラットフォームの事業化が進展——

当社は、中国の総合リサイクル企業である浙江巨東株有限公司（中華人民共和国浙江省台州市）および日本の大手総合商社と連携し、使用済みアルミニウムを原料とした再生地金を日本国内のメーカーに供給するマテリアルリサイクルのサプライチェーン・プラットフォームを構築、このたび、その第一便となるアルミニウム再生地金（6063 合金）が日本に輸入され、国内メーカーへの供給が実現しました。

現在、世界的にリサイクル資源の獲得競争が激化しています。AI の普及や脱炭素化の進展などを背景に、さまざまな鉱物・金属資源の需要が拡大するなか、資源の安定確保と循環利用の重要性が高まっています。資源の多くを海外に依存する日本では、リサイクル資源を安定的に調達・供給するサプライチェーンの構築が課題となってきました。最近では、欧州を中心に自動車分野などで再生材の利用拡大に向けた制度整備が進んでいます。日本メーカーにとっても、こうした動きに対応できなければ、グローバル市場における事業機会の逸失や国際競争力の低下につながる可能性があります。

当社グループは、こうしたリサイクル資源を取り巻く世界的な動向を踏まえ、2026 年 9 月、取締役会において「再生資源サプライチェーン・プラットフォーム構築宣言」を採択しました。これまで培ってきた経験とノウハウを生かし、単なる再生資源の売買にとどまらず、国内外の調達ネットワーク、選別・加工技術、品質管理体制、メーカー・需要家との連携を一体化したプラットフォームの構築を進めています。これにより、資源の排出事業者と日本国内メーカーをつなぎ、再生資源の安定的な調達・供給を支えるサプライチェーンの実現を目指しています。今回の中国から日本国内メーカーへのアルミニウム再生地金（6063 合金）の供給も、この取り組みの一環です。

アルミニウム再生地金（6063 合金）とは

アルミニウム再生地金とは、使用済みのアルミニウム製品やスクラップを回収・溶解し、成分を調整したうえで、インゴット（地金）の形に鑄造した再生材です。6063 合金は、押出加工性や耐食性、表面処理後の外観の良さなどに優れ、幅広い用途に使用されています。

主な用途は、

- ・ 建築用サッシ（窓枠、ドア枠、カーテンウォールなど）
- ・ 手すり、フェンス、門扉などのエクステリア製品
- ・ 家具・設備の枠材、各種フレーム
- ・ 自動車や産業機器の構造部材

などです。

アルミニウム再生地金の特長

アルミニウムの新地金（ボーキサイトを原料として製錬した地金）と比較して、スクラップを原料とする再生地金には、主に以下の特長があります。

1. 省エネルギー性

アルミニウムは、製錬工程で大量の電力を必要とすることから「電気の缶詰」とも呼ばれています。ボーキサイトから新地金を製造する場合には多くのエネルギーを要しますが、スクラップから再生地金を製造する場合、必要なエネルギーは大幅に削減できます。このため、アルミニウムのリサイクルは、製造工程におけるエネルギー消費量や CO₂ 排出量の削減に貢献します。脱炭素化に向けた取り組みが進むなか、アルミニウム再生地金の活用は、環境負荷の低減に資する重要な選択肢となっています。

2. 資源循環性

建築用サッシの解体材など、6063 系のアルミニウムスクラップは、適切な選別・成分管理を行うことで、再び 6063 系の合金原料として利用しやすく、水平リサイクル（使用済み製品を同種の製品の原料として再利用すること）に適しています。

3. 品質管理

アルミニウムスクラップには、鉄、銅、亜鉛などの不純物が混入する場合があるため、再生地金の製造においては、成分管理が品質確保の重要なポイントとなります。用途や求められる品質に応じて、スクラップの選別や配合を適切に行うことが重要です。

今後の業績に与える影響

本件が当社の連結業績に与える影響は軽微です。今後、開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以上